
プロフィール

●御喜 美江（みき みえ）

東京生まれ。16歳でトロシingen市立音楽院（ドイツ）へ単身留学。ハノーファー国立音大ピアノ科でベルンエルト・エーベルトに師事。1973・74年、クリンゲンタール国際アコーディオン・コンクール（ドイツ）青年の部で連続優勝を遂げ、ドイツを中心に活発な演奏活動を開始。

日本では77年に岩城宏之指揮・札幌交響楽団でデビュー。87年にサントリーホール、88年にカザルスホールのオープニングシリーズに出演。これまでに小澤征爾指揮サイトウ・キネン・オーケストラ、スイス・ロマン管弦楽団、佐渡裕指揮ベルリン・ドイツ交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団等、オーケストラとの共演も多数あります。

自主企画リサイタル「御喜美江アコーディオン・ワークス」を1988年より開催し、その革新的なプログラムが常に注目を集めています。高橋悠治、吉松隆、細川俊夫など、現代を代表する作曲家達が御喜のために新曲を多数作曲しています。

CDは「アコーディオン・バッハ」（ナクソス・ジャパン）「フランス・バロック集」「スカルラッティ・ソナタ集」「グリーグ：叙情小曲集」（以上BIS／キング・インターナショナル）など国内外で25枚以上リリース。

バロックから現代曲まで幅広いレパートリーを持ち、クラシック・アコーディオンの世界的第一人者として確固たる地位を築いています。

米子では2002年3月、米子労音（当時）例会にてバッハなどを披露しています。

●大田 智美（おおた ともみ）

幼少の頃よりピアノを始め、10歳からアコーディオンを江森登氏に師事。国立音楽大学附属音楽高等学校ピアノ科卒業後、渡独。

デトモルト音楽大学（ドルトムント）アコーディオン教育学科、フォルクヴァンク音楽大学（エッセン）芸術家コースを経て、2009年2月フォルクヴァンク大学ソリストコース（Konzertexamen）アコーディオン科を審査員全員一致の最優秀の成績で卒業、ドイツ国家演奏家資格を取得。御喜美江氏に師事。

2009年夏に帰国後、ソロや室内楽、作曲家との共同作業を経ての新曲初演、舞台音楽など幅広い分野において積極的に活動している他、後進の指導にも力を注いでいます。2010年よりバラライカ奏者・北川翔とのデュオ、ピアニスト長見摩耶とのユニット Duo“MONT”での演奏活動を開始。2014年11月、米子市文化ホールで北川さんのバラライカとともにその音色を聴かせてくれました。

現在、北川記念ロシア民族楽器オーケストラ・首席アコーディオン奏者、アンサンブル・バラトン・メンバー、（株）音楽センター・アコーディオン個人レッスン教室講師、NPO 法人日本アコーディオン協会理事。